

造形芸術としての都市

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授 伊藤 毅^{いとう たけし}

● 英仏百年戦争

ボルドー(Bordeaux)が位置する南西フランス一帯はアキテーヌ(Aquitaine)と呼ばれる地域で、世界的なワインの産地として知られる。ボルドーはアキテーヌ州の州都であり、フランス全体では7番目に大きな都市である。

アキテーヌはフランスとイングランドが激しい攻防を繰り返した英仏百年戦争の原因のひとつであった。両国の100年に及ぶ戦いのきっかけはアキテーヌ地方を含む南西フランスの争奪にあったのである。

話は12世紀に遡る。アリエノール・ダキテーヌ(Aliénor d'Aquitaine)という美貌と教養を兼ね備えた一人の女性がいた。彼女は15歳の時、フランス国王ルイ7世(Louis VII le Jeune)のもとに嫁ぎ王妃となったが、結婚生活15年目にして近親婚を理由にみずから離婚を申し出る。そして離婚成立のわずか6週間後に11歳年下のアンジュ(Anjou)伯にしてノルマンディー(Normandie)公アンリ(Henri)と再婚を果たす。ちなみにアリエノールとアンリはルイ7世よりさらに近い血縁関係にあった(写真-1)。

この男女の愛憎劇が思わぬ方向に発展した。すなわち、アリエノールはアキテーヌ公領はもとより、ガスコ

ーニュ(Gascogne)公領、ポワティエ(Poitiers)伯領を含む南西フランス一帯の広大な土地の女相続人であったし、アンリはのちにイングランド王ヘンリー2世(Henry II)になりイングランド、アンジュ、ノルマンディーを領有することになる。結果として、2人には英仏両国にまたがる未曾有の大領地がころがりこんできたのである。とりわけアキテーヌは肥沃な農村地帯であり、当時からブドウおよびワインの一大生産地であったから、フランスがこの離婚・再婚劇で被ったダメージがいかに甚大であったかは想像に難くない。

百年戦争はその後この南西フランスの土地の領有権をめぐる攻防を縦糸として、そこに両国の王位継承問題やワイン貿易、フランドル羊毛問題などのさまざまな横糸が絡み複雑化し、戦いは泥沼化する。シェークスピアの戯曲『リチャード2世』は戦費で疲弊したイングランド内部の熾烈な政争を活写したものであるが、主人公のイングランド王リチャード2世(Richard II)はなんとボルドー生まれなのである。アキテーヌ地方は地理的にはフランス領内にありながら、イングランドとフランスの入会地のような様相を呈していた。ボルドーはいまでもコスモポリタンの雰囲気横溢する町だが、その源をたどると英仏百年戦争に行き着く。

● ジロンド派を生んだ町

ボルドーはフランスのなかでもパリを中心とする伝統的で因習的な地域から地理的に隔絶していたこともあって、コスモポリタンにして自由で闊達な思想を育てる培養基になった。そのことは、3人のMと呼ばれるモンテスキュー(Montesquieu、18世紀の法学者、「三権分立論」を唱えた)、モンテーニュ(Montaigne、16世紀の哲学者、主著に『エッセー(随想録)』)、モーリアック(Mauriac、20世紀フランスを代表する文学者、



写真-1 フォントヴラウ修道院に安置されたヘンリー2世とアリエノールの墓



写真2 ジロンド派記念碑

ノーベル文学賞受賞)がいずれもボルドー出身であることを指摘すれば十分であろう。

もうひとつ、フランス革命の時に旧体制に反逆し王政廃止に大きな役割を果たしたジロンド派(Girondins)の本拠がボルドーにあったことも見逃せない。フランス革命の最終段階では急進的な革命路線を譲らない山岳派と穏健な共和制を目指すジロンド派が対立し、ジロンド派は衰退するが、ジロンド派のもつ思想はその後のフランス共和制確立のための基盤となったと考えられる。ジロンド派の構成員のほとんどが、ボルドーの裕福なブルジョワジーであった。ボルドー中央のカンコンス広場(Place des Quinconces)にはジロンド派の歴史的役割を顕彰した記念碑が立っている(写真-2)。

この広場は1810~22年に整備されたもので、12万6000平方メートルの面積をもつ。これはヨーロッパの都市広場としては最大規模である。ジロンド派記念碑はフランス革命100周年を記念して建設された。極左にも極右にも走らない穏健で合理主義的な思想の形成はアキテーヌ地方の豊かな経済を背景としつつ、英仏百年戦争のイングランド支配下、かなりの程度、自由・自治が認められていたという事実と関係がある。

● ● ● フランスでもっとも美しい町 ● ● ●

フランスの文豪スタンダール(Stendhal)は、晩年南フランス各地を旅行し、その見聞を記した旅行記を残

している(『ある旅行者の手記』Mémoires d'un tourist、1838年)。スタンダールの旅はパリからボルドー、トゥールーズ(Toulouse)を経て、スペインとの国境地帯にまで及んだ。この旅行記は19世紀フランスの政治・文化・社会を文豪の透徹した観察眼が捉えた貴重な記録のみならず、良質の都市ガイドとしても読める。そのなかでボルドーの町は文豪にとって特別のものと映ったらしく、「フランスでもっとも美しい町」という最大級の賛辞を書きとどめている。冷静で客観的な叙述スタイルを変えなかったスタンダールにしては、きわめて稀有な表現といってよい。スタンダールが訪ねたボルドーはカンコンス広場など19世紀初頭の都市整備を終えたばかりであった。

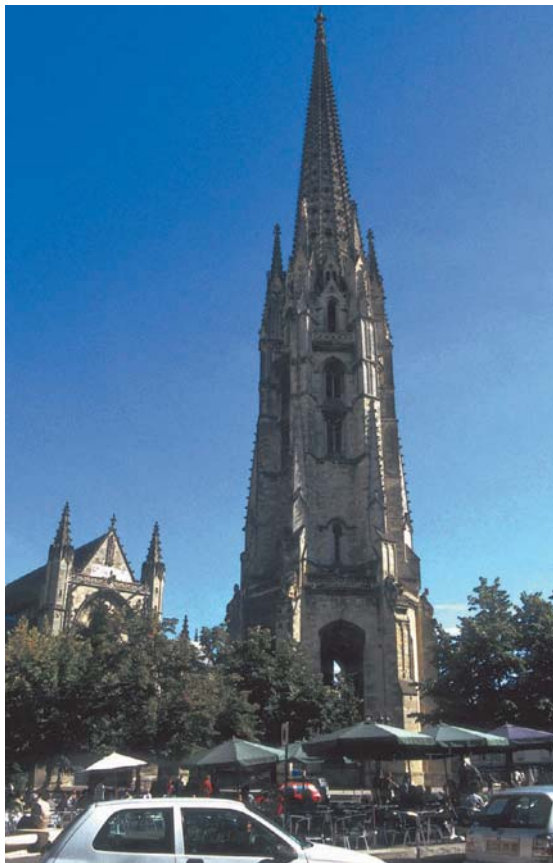
ボルドーを代表する宗教的モニュメントは、サン・タンドレ大聖堂(cathédrale St-André)とサン・ミッシェル教会(Basilique Saint-Michel)が双璧をなしている。サン・タンドレ大聖堂はボルドー最大の教会で、ロマネスク時代の遺構は身廊(入口から内陣にいたる中央部分)に一部残されているがほとんどはゴシック時代のものである(写真-3)。先に触れたルイ7世とアリエノールの結婚式はここでござかに執り行われた。

写真-3 サン・タンドレ大聖堂内部



写真-5(上) サン・ミッシェル教会鐘楼からの眺望
写真-6(下) ボルドーの18世紀の町並み

写真4 サン・ミッシェル教会鐘楼



サン・ミッシェル教会はバシリカ形式のゴシック教会堂で、15世紀末から16世紀にかけて建設された。教会に付設された鐘楼は高さ114メートルに達する(写真-4)。気が遠くなるような長い螺旋階段を1段1段登り、息もきれぎれにやっと鐘楼上部に到達すると、そこからの眺望は筆舌に尽くしがたいすばらしさで、ボルドーの町の全景を眺望することができる(写真-5)。

● ● ● 月の港—ボルドー

ボルドーは18世紀にその繁栄の極点に達した。ガロンヌ川(Garonne)がボルドーに入ると三日月のように湾曲していることから「月の港(Port de la Lune)」と呼ばれ、ワインをはじめとする各地の物資が行き交

う国際的な貿易港として賑わった。町には18世紀のファサードをもつ都市建築が大量に分布する(写真-6)。18世紀の建築がこれほど質・量ともに残されているのは珍しい。

ボルドーはパリにおけるオースマンの大改造の約1世紀も早い時期に市門や広場、道路などの都市美観を整備したことで知られる。建築史家ドナルド・オールセン(Donald J. Olsen)の浩瀚な研究によると、都市を芸術作品と見立てて整備するのは19世紀国民国家の首都に共通した特徴であるが(『芸術作品としての都市—ロンドン・パリ・ウィーン』)、ボルドーはその先駆をなしている。その時期に建設された بورس広場(place de la Bourse)は、王付建築家アンジュ・ジャック・ガブリエル(Ange-Jacques Gabriel)によって1775年に完成

写真-7(上) ブルス広場
写真-8(下) 大劇場

した。ガロンヌ川に開く広場は、まるでヴェルサイユ宮殿を思わせる背後の宮殿のバロック的な構成とあいまって、壮大な劇場装置をみるかのごとくである(写真-7)。

本物の大劇場(Grand Théâtre)の方はコメディ広場(Place de la Comédie)に面して立つ。この建築も18世紀のもので、パレ・ロワイアル(Palais Royal)を設計した建築家ヴィクトル・ルイ(Victor Louis)によって1773年から1780年にかけて建てられた。新古典主義様式の堂々たる建築で、パリのオペラ座を手がけたシャルル・ガルニエ(L. Charles Garnier)は、オペラ座を設計するにあたり、この大劇場から少なからずインスピレーションを得たという(写真-8)。

● ● 世界遺産の転回点 ●

2007年6月29日、ボルドーの町が28日付でユネスコ世界遺産に正式に登録されたというニュースが世界中を駆けめぐった。ユネスコ世界遺産の登録自体、一定のニュース性があることは確かだが、世界的な大ニュースになることは珍しい(写真-9)。ボルドーのケースは従来型の文化遺産にはないものを含んでいた。

認定されたのは、いわゆる歴史的街区だけでなく1960年代の人工地盤により開発されたメリアデック(Mériadek)のオフィス街やグランパルク(Le Grand Parc)の集合住宅など、近代的な再開発地区を含む。その面積は1810ヘクタールに達し、市域のおよそ50パ



ーセントにあたる。旧市街地が世界遺産に登録された事例は過去数え切れないほど存在するが、これほどの大規模な市街地面積の遺産登録はなかったし、しかも60年代以降の都市開発までが含まれる例はボルドーをもって嚆矢とする。

18世紀の都市景観整備と当該期の建築の残存状



写真-9 ユネスコ世界遺産認定を祝う市庁舎前のイベント

